

東 部 開 発 地 域

土 地 分 類 基 本 調 査

伊 野

5 万 分 の 1

国 土 調 査

高 知 県

1 9 8 3

序 文

国土は、国民の生活及び生産を通ずる諸活動の基盤であります。この貴重な国土をいかに有効に利用し、保全してゆくかは、狭い国土の我国にとって最も大きな課題でもあります。

この調査は、土地利用上の基礎である地形、表層地質、土壌の各土地条件、保全条件、利用現況等を科学的、総合的に調査し、行政各分野で策定された諸計画の適正な実施を促進するとともに、地域の特性に応じた国土の利用や規正に関する県や国の諸施策、立案等の基礎資料とするために実施するものです。

昭和40年度に国において「高知」図幅の調査を実施したのを初年度とし、県独自の調査は昭和49年度に「宿毛・土佐中村」図幅を、昭和50年度に「岩松」、「大用」各図幅を、昭和51年度に「田野々」、「土佐佐賀」各図幅を、昭和52年度に「構原」、「窪川・一子簪」各図幅を、昭和53年度に「須崎」、「新田」各図幅を、昭和54年度に「上土居」、「柏島・土佐清水」各図幅を、昭和55年度に「石鎚山」、「奈半利・室戸岬」各図幅を、昭和56年度に「馬路」、「手結・安芸」各図幅を、昭和57年度に「伊野」図幅を実施しました。

昭和58年度は「大栃」図幅を調査し、その後も引き続いて各図幅の調査を行い、県全域の調査を完遂する所存であります。

この調査の成果が一般行政上各分野で利用されることはもとより、国民の各層各方面で幅広く活用されることを希望するとともに、資料の収集、調査、図簿の作成等に御協力をいただきました各関係機関並びに担当者各位に対し深く謝意を表します。

昭和 58 年 3 月

高知県農林水産部長 窪 田 敬 一

調 査 担 当 機 関

総 合 企 画

国土庁土地局国土調査課

総 括・調 査・編 集

高知県農林水産部耕地課

地 形 分 類 調 査

高知県地理学研究会(西 和彦)

表 層 地 質 調 査

高知大学理学部(甲藤次郎)

土 壌 調 査

高知県林業試験場

高知県農林技術研究所

関 連 調 査

(傾斜標高区分調査)

高知県地理学研究会

(水系・谷密度調査)

高知県地理学研究会

(土地利用現況調査)

高知県農林水産部林業課

高知県農林技術研究所

目 次

序 文

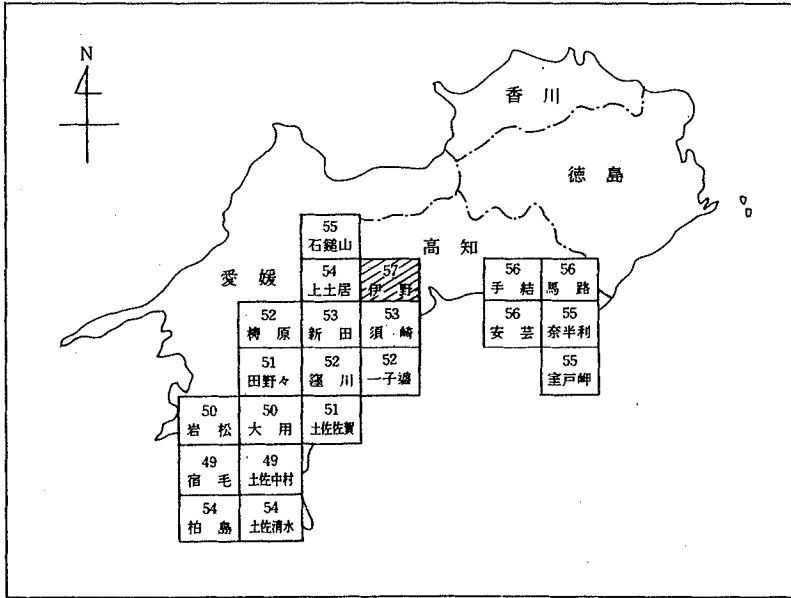
総 論

I 位置及び行政区画	1
II 地域の概要	3

各 論

I 地形分類図	9
II 表層地質図	14
III 土 壌 図	18
IV 傾斜及び標高区分図	26
V 水系・谷密度図	27
VI 土地利用現況図	28

調査地域一観区



総論

I 位置及び行政区画

1. 位置

「伊野」図幅は、高知県の中央部に位置し東経133°15'～133°30'，北緯33°30'～33°40'の範囲であり，図幅内の陸地面積は428.47km²である。

2. 行政区画

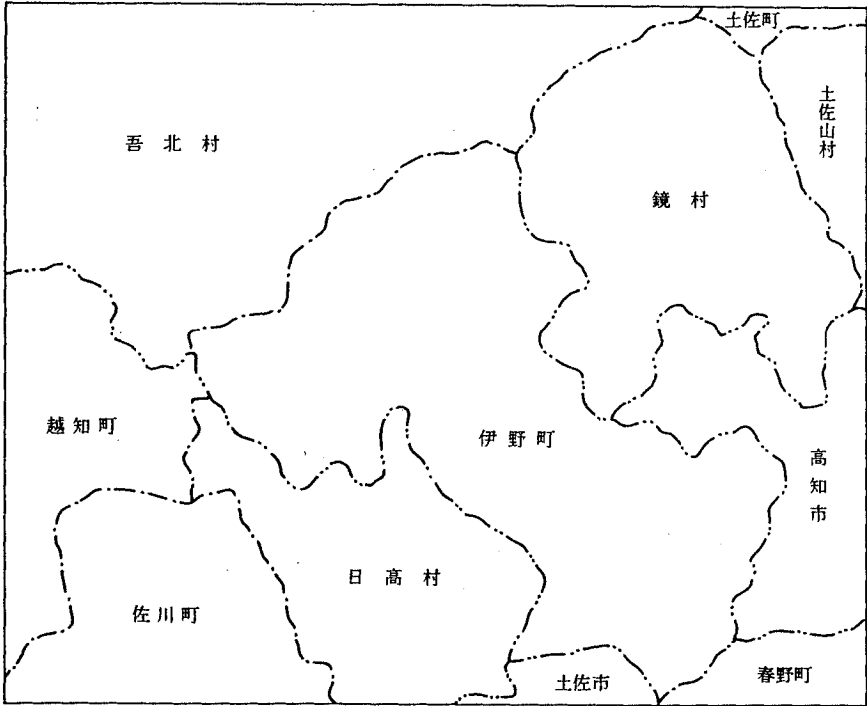
当図幅内の行政区画は第1図のとおりで高知市，土佐市，土佐町，伊野町，春野町，佐川町，越知町，鏡村，土佐山村，吾北村，日高村よりなる2市5町4村である。

第1表 市町村別面積

区分 市町村名	図幅内面積		市町村全体面積 B (km ²)	A/B (%)
	実数A (km ²)	構成 (%)		
高知市	31.11	7.3	143.23	21.7
土佐市	9.22	2.2	91.58	10.1
土佐郡鏡村	60.23	14.1	60.46	99.6
” 土佐山村	13.43	3.1	59.41	22.6
” 土佐町	1.03	0.2	210.96	0.5
吾川郡伊野町	99.86	23.3	99.86	100
” 春野町	11.63	2.7	45.46	25.6
” 吾北村	88.92	20.8	162.05	54.9
高岡郡佐川町	38.86	9.1	104.39	37.2
” 越知町	31.02	7.2	109.79	28.3
” 日高村	43.20	10.0	44.50	97.1
合計	428.51	100	1,131.69	37.9

資料：市町村全体面積は昭和56年度全国都道府県市区町村別面積調による。

第1図 行政区画図



II 地 域 の 概 要

1. 地 勢

当地域は、高知県のほぼ中央部に位置し山地から平野部への移行地帯にあたり
 図幅の北部が緩傾斜の山地で占められており、南部は図幅の西から東にかけて仁
 淀川が縦断しておりその堆積による低地が広がっている。

2. 人 口

当図幅関係市町村の人口は、昭和55年10月1日現在415,192人で同世帯数は136,
 532世帯である。これを前回国勢調査時と対比すると人口で22,206人の増加、世
 帯数で7,019世帯の増加となっているが当図幅内に限っていえば県都高知市の周
 辺地域においては人口世帯数とも増加しているが、山間の地域においては若年勞
 働者の高知市への流出などにより人口・世帯数とも減少している。

第2表一(1) 市町村別人口

区 分 市町村名	人 口 ・ 世 帯 数				増 減 数		増 減 率 (%)	
	55年		50年(A)		55年-50年(B)		B ÷ A	
	人 口 (人)	世帯数 (世帯)	人 口 (人)	世帯数 (人)	人 口 (人)	世帯数 (世帯)	人 口	世帯数
高 知 市	300,822	103,237	280,962	97,469	19,860	5,768	7.1	5.9
土 佐 市	31,677	8,979	30,679	8,505	998	474	3.3	5.6
土佐郡鏡 村	1,806	486	1,941	504	△ 135	△ 18	△ 7.0	△ 3.6
〃 土佐山村	1,383	399	1,557	419	△ 174	△ 20	△ 11.2	△ 4.8
〃 土佐町	6,663	1,950	6,679	2,017	△ 16	△ 67	△ 0.2	△ 3.3
吾川郡伊野町	22,636	6,700	21,480	6,253	1,156	447	5.4	7.1
〃 春野町	14,255	3,933	13,711	3,699	544	234	4.0	6.3
〃 吾北村	4,684	1,552	5,203	1,634	△ 519	△ 82	△ 10.0	△ 5.0
高岡郡佐川町	16,114	4,661	15,694	4,500	420	161	2.7	3.6
〃 越知町	9,052	2,886	9,032	2,854	20	32	0.2	1.1
〃 日高村	6,100	1,749	6,048	1,659	52	90	0.9	5.4
合 計	415,192	136,532	392,986	129,513	22,206	7,019	5.7	5.4

資料：昭和55年国勢調査

第2表—(2) 年齢階級別男女人口

項目 市町村名	総数	男女		年 齢 階 級										15歳以上の比率(%)		60歳以上の比率(%)
		男	女	0~14歳		15~24歳		25~34歳		35~59歳		60歳以上		男	女	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
高知市	300,822	141,737	159,085	34,238	32,899	19,115	21,383	25,161	27,156	46,349	53,276	16,476	24,112	75	79	13
土佐市	31,677	15,359	16,318	3,543	3,114	1,637	1,668	2,486	2,453	5,169	5,581	2,524	3,502	77	81	19
土佐郡鏡村	1,806	885	921	154	155	99	71	107	98	310	342	215	237	83	81	25
” 土佐山村	1,383	697	686	89	82	95	73	99	63	249	272	156	196	86	88	25
” 土佐町	6,663	3,409	3,254	614	581	306	281	480	383	1,328	1,189	681	820	82	82	23
吾川郡伊野町	22,636	10,973	11,663	2,530	2,283	1,197	1,233	1,849	1,773	3,664	3,963	1,733	2,411	77	80	18
” 春野町	14,225	6,808	7,447	1,411	1,384	744	709	1,023	1,001	2,317	2,570	1,313	1,783	79	81	22
” 吾北村	4,684	2,328	2,356	385	336	204	109	284	227	857	920	598	704	83	86	28
高岡郡佐川町	16,114	7,787	8,327	1,647	1,551	905	876	1,140	1,105	2,684	2,882	1,409	1,912	79	81	21
” 越知町	9,052	4,290	4,762	856	807	478	491	593	574	1,512	1,649	851	1,241	80	83	23
” 日高村	6,100	2,926	3,174	619	580	358	361	453	421	971	1,114	525	698	79	82	20
合 計	415,162	197,199	217,993	46,086	43,772	25,138	27,315	33,675	35,254	65,410	73,758	26,481	37,616	76	80	15

資料：昭和55年度国勢調査

3. 気 候

当図幅内には気象観測所はないが高知市の高知気象台における昭和55年の気象概況は第3表のとおりであり、年平均気温16.0℃（全国平均14.3℃）年間降水量1,997mm（同1,682mm）で温暖で降水量が多い気候である。

第3表 高知気象台気象概況

区分 月別	気 象 (℃)							降 雨 量 (mm)		
	平 均			極 値				総 量	日最大	起 日 (月日)
	平均	最高	最低	最高	起日 (月日)	最低	起日 (月日)			
年	16.0	20.9	11.7	34.6	6/23	-5.4	2/27	1,997	136	8/28
1月	3.3	9.5	-2.0	14.5	25	-4.5	6	6	3	31
2月	6.9	12.7	1.8	20.8	16	-5.4	27	109	43	17
3月	11.6	16.7	6.9	24.5	22	0.2	11	202	82	25
4月	15.9	21.4	10.2	26.1	30	3.1	3	296	75	19
5月	18.2	23.0	13.2	27.2	25	7.5	5	115	27	11
6月	22.8	26.5	19.4	34.6	23	11.6	3	170	37	26
7月	26.8	30.5	23.9	34.3	22	21.7	4	368	90	11
8月	26.7	30.6	23.2	34.0	21	18.2	6	292	136	28
9月	22.9	27.1	19.3	31.0	1	14.5	29	192	62	25
10月	17.8	23.0	13.4	28.7	1	7.0	27	115	34	8
11月	11.7	16.7	7.4	23.7	1	1.6	10	116	59	2
12月	7.9	13.6	3.2	18.4	29	-0.6	16	16	16	19

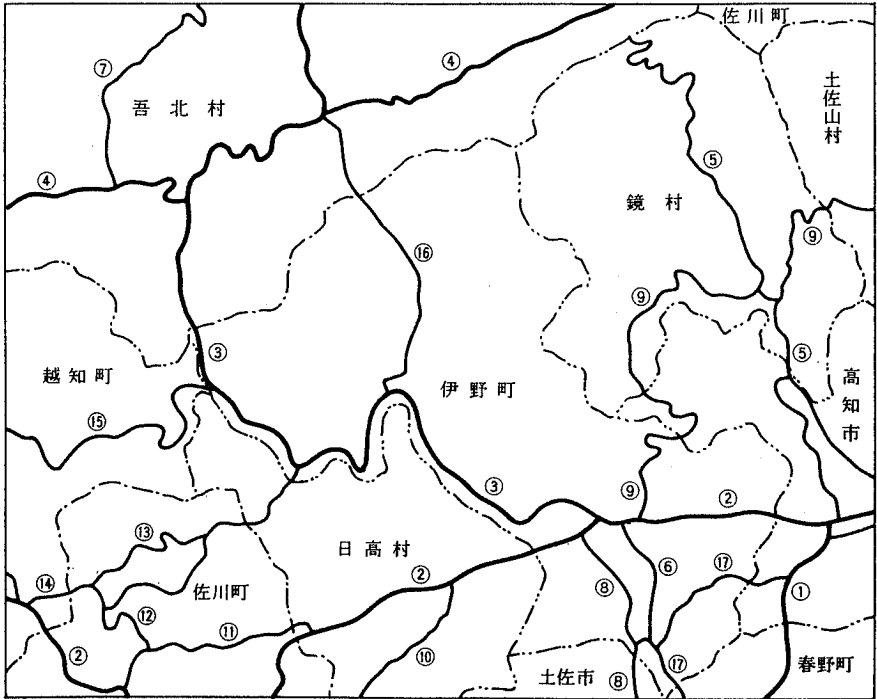
資料：昭和55年高知県気象年報

4. 交通

当図幅内の交通体系は第2図のとおりで、国道、県道が縦横に走っており、国道33号線が高知市と愛媛県を結び同194号線が図幅の中央部を走り北部の地域と高知市を結んでいる。

また、国道33号線、同194号線、同439号線をその他の一般県道が結びつけている。

第2図 道路位置図



- | | |
|--------------|----------------|
| ① 一般国道56号線 | ⑩ 一般県道谷地地下停車場線 |
| ② " 33号線 | ⑪ " 岩目地西俣川停車場線 |
| ③ " 194号線 | ⑫ " 庄田伊野線 |
| ④ " 439号線 | ⑬ " 柳瀬越知線 |
| ⑤ 主要県道高知別子山線 | ⑭ " 下山越知線 |
| ⑥ 一般県道横浜伊野線 | ⑮ " 片岡庄田線 |
| ⑦ " 弘岡下横南線 | ⑯ " 思地川口線 |
| ⑧ " 伊野高岡線 | ⑰ " 西津賀相比原線 |
| ⑨ " 穴崎平石伊野線 | |

5. 産 業

当図幅関係市町村の産業別就業者状況は第4表のとおりで構成率は第1次産業が11%、第2次産業が23%、第3次産業が65%となっており、当図幅関係2市5町4村の総面積並びに土地利用現況は第5表のとおりで、林野73.2%、耕地9.5%、その他17.3%の構成率になっている。

(1) 農林業

当地域は、地理的、経済的、社会的に高知市に接続しており自然的、産業的立地条件は農業に適し、地域の特性を生かした農業が行われており、みかん、新高梨などの暖地農産物のほか豊かな森林資源を生かした梅、たけのこ、しいたけなどが特産品である。

(2) 商工業

伊野町を縦断して流れる仁淀川は製紙に適した良質の水を豊富にもたらし製紙業の伝統は古く土佐和紙の発祥地として知られている。

第4表 産業別就業者数

区 分 市町村名	総 計 (人)	第1次産業(人)				第2次産業(人)			第3次産業(人)				不 明 (人)	構 成 比(%)		
		計	農 業	林 業	水 産 業	計	うち 建設 業	うち 製造 業	計	う 卸 小 売 業	う 運 輸 通 信 業	う サ ー ビ ス 業		第 一 次 産 業	第 二 次 産 業	第 三 次 産 業
高 知 市	144,255	5,829	4,276	615	938	31,375	15,083	16,020	106,846	45,776	8,805	37,533	205	4	22	74
土 佐 市	16,298	5,698	4,646	13	1,039	3,401	1,246	2,105	7,190	2,823	740	2,677	9	35	21	44
土佐郡鏡 村	1,098	577	552	24	1	202	130	67	319	118	42	99	—	53	18	29
” 土佐山村	797	366	331	35	—	231	177	42	200	52	21	98	—	46	29	25
” 土佐町	3,740	1,201	1,026	172	3	1,219	866	324	1,320	412	136	601	—	32	33	35
吾川郡伊野町	11,167	1,492	1,425	53	14	3,582	1,328	2,228	6,087	2,416	642	2,207	6	13	32	55
” 春野町	7,929	3,132	2,982	14	136	1,386	540	824	3,409	1,180	304	1,289	2	40	17	43
” 吾北村	2,578	977	865	110	2	837	596	241	761	225	88	319	3	38	32	30
高岡郡佐川町	8,148	1,980	1,945	30	5	2,344	1,124	1,128	3,818	1,255	517	1,554	6	24	29	47
” 越知町	4,745	1,117	1,036	76	5	1,661	983	611	1,967	755	154	821	—	24	35	41
” 日高村	3,146	711	673	35	3	1,028	525	486	1,404	480	158	564	3	23	33	44
合 計	203,901	23,080	19,757	1,177	2,146	47,266	22,598	24,076	133,321	55,492	11,607	47,762	234	11	23	65

資料：昭和55年国勢調査

第5表 土地利用の概況

区分 市町村名	総面積 (ha)		耕地面積 (ha)				林野面積 (ha)				その他 面積 (ha)			構成比 (%)	
	計	田	畑	樹園地	採草地	計	現況森林面積		森林 以外の 草地	計	計	構地率	林野率	その他 率	
							うち 人工林	うち 人工林							
高知市	14,323	1,650	293	209	36	5,791	5,791	1,715	—	6,342	15.3	40.4	44.3		
土佐市	9,158	1,430	61	638	—	5,124	5,124	2,270	—	1,904	23.2	56.0	20.8		
土佐郡鏡村	6,046	123	24	79	—	5,201	5,200	2,811	1	619	3.7	86.0	10.3		
”土佐山村	5,941	190	108	62	—	5,388	5,383	3,132	5	363	3.2	90.7	6.1		
”土佐町	21,096	754	82	117	25	18,241	18,241	14,602	—	2,101	3.6	86.5	9.9		
吾川郡伊野町	9,986	796	441	211	—	7,668	7,668	3,524	—	1,522	8.0	76.8	15.2		
”春野町	4,546	1,380	50	153	—	1,715	1,715	385	—	1,451	30.4	37.7	31.9		
”吾北村	16,205	491	173	239	—	14,089	14,057	10,760	32	1,625	3.0	87.0	10.0		
高岡郡佐川町	10,439	1,430	109	243	28	7,159	7,159	4,871	—	1,850	13.7	68.6	17.7		
”越知町	10,979	663	247	141	—	9,437	9,437	6,335	—	879	6.0	86.0	8.0		
”日高村	4,450	580	63	114	—	2,979	2,978	1,685	1	891	13.0	67.0	20.0		
合 計	113,169	10,830	7,363	1,239	89	82,792	82,753	52,090	39	19,547	9.5	73.2	17.3		

資料：1. 総面積は昭和56年全国都道府県市区町村別面積調による。

2. 耕地及び林野面積は高知農林水産統計年報（昭和55年～昭和56年）による。

第6表 昭和54年度市町村内純生産

(単位：百万円%)

市町村名	総 生 産 額						構 成 比															
	第1次産業		第2次産業		第3次産業		第1次産業		第2次産業		第3次産業											
	計	うち農業	うち林業	計	うち建設業	うち製造業	計	うち農業	うち林業	計	うち建設業	うち製造業										
高知市	452,663	6,406	4,046	82	101,977	43,014	57,906	350,150	109,380	34,300	122,220	122,220	1.4	63.2	1.3	22.5	42.2	56.8	77.4	29.3	9.8	34.9
土佐市	36,191	10,660	6,548	143	8,604	1,134	5,047	17,570	5,283	1,518	6,353	29.4	61.5	1.3	23.8	36.4	58.7	48.5	30.1	8.6	36.2	
土佐郡鏡村	1,795	508	334	155	503	480	13	805	153	84	286	28.3	65.7	30.5	28.0	95.4	2.6	44.8	19.6	10.4	35.5	
土佐山村	1,832	472	245	207	495	415	61	889	64	79	161	25.8	51.9	43.9	27.0	83.8	12.3	48.5	7.2	8.9	18.1	
土佐町	8,301	2,024	643	1,301	1,977	1,343	615	4,430	852	812	1,501	24.4	31.8	67.2	23.8	67.9	31.1	53.4	19.2	18.3	32.9	
吾川郡伊野町	23,676	1,287	1,110	134	11,521	3,030	8,386	11,588	3,519	1,183	3,810	5.4	86.2	10.4	48.7	26.3	72.8	48.9	30.4	10.2	32.9	
春野町	15,234	5,248	4,107	51	3,930	1,537	1,965	6,307	1,666	338	2,102	34.4	78.3	1.0	25.8	39.6	50.0	41.4	26.4	5.7	33.3	
吾北村	4,576	554	363	140	1,662	1,188	475	2,416	361	221	642	12.1	65.5	25.3	36.8	70.6	28.2	52.8	14.9	9.1	26.6	
高岡郡佐川町	15,717	1,675	1,575	80	5,226	2,273	1,891	9,657	1,888	1,091	3,563	10.7	94.0	4.8	33.3	43.5	36.2	57.6	20.8	12.0	39.3	
越知町	8,950	874	670	103	2,703	1,420	1,062	5,506	1,322	451	2,210	9.8	76.7	11.8	30.2	52.5	39.3	61.5	24.0	8.2	40.1	
日高村	5,257	712	646	48	1,938	1,122	777	2,700	667	66	1,320	13.5	90.7	6.7	36.9	57.9	40.1	51.4	24.7	2.4	48.9	
合 計	574,192	30,410	20,287	2,594	140,556	58,976	78,199	411,418	118,360	40,163	144,168	5.3	66.7	8.2	24.5	42.0	55.6	71.7	28.8	9.8	35.0	

資料：昭和54年度県民所得統計書

各 論

I 地形分類図

本地域は、大地形区分からいって、南四国中央低地西南部から中部山地の一部を含む地域である。図幅としては、既刊の「上土居」図幅の東側、「須崎」図幅の北側に位置している。南四国中央低地は、基盤の地体構造上の特徴であるSWW-NNE方向の帯状地層配列に支配され、地形的にも同方向の地壘山地と地溝性の盆地・低地・湾が土佐湾に向かって順次高度を下げながら東西方向に帯状分布を示す地域である。本図幅におけるそれは、西方より越知・佐川盆地にはじまり、日高低地、伊野低地、高知平野と連なる地溝帯と、高岡・弘岡低地及びその延長である南側地溝帯に大別される。そしてこれら盆地や低地の両側には、大小の起伏をもつ丘陵地が連続分布しているという地溝帯特有の地形を示している。

この両地溝帯を地形的に区分しているいわゆる地壘山地は、虚空蔵山・鷲尾山山地である。この地壘山地の地質的区分界が仏像構造線である。

図幅北半を占める山地は、地質的な構造支配をうけて、地形的にも東西方向の山地列を形成している。山地列を大別すると、図幅北西部にその一部が分布している吾北山地と、図幅中央部の大半を占める吾川・土佐山山地に区分される。この両者を区切るのは、いわゆる上入川―池川構造線（「表層地質図」参照）であって、両山地はその基盤岩類を異にしている。なお、吾川山地及びその前山である北山山地を侵食して大きく蛇行しながら東流している仁淀川は、先行性の河川であり、一時期は越知盆地より日高低地をぬけ、さらには高知平野西部に至るルートをとっていたことも考えられる河川である。

本図幅を地形区分するに先立ち、起伏量区分図、切峯面図を作成し、さらに別紙の傾斜区分図、水系・谷密度図を参考にして次のような地形区に区分した。

I 山地

I a 吾北山地

I b 吾川・土佐山山地

I c 北山山地

I d 虚空蔵山・鷲尾山山地

II 丘陵・盆地

II a 越知・佐川盆地

II b 日高丘陵地

II c 高知平野周辺丘陵地

II d 高岡・弘岡丘陵地

III 低地

III a 日高低地

III b 伊野低地

III c 高知平野

III d 高岡・弘岡低地

1. 山地

1-1 吾北山地 I a, 吾川・土佐山山地 I b

これらの山地は、西側の中津明神山山地と連なる同じ秩父古生層群を基盤とする地域である。しかし中津明神山山地など四国の脊梁山地とよばれている山地群に比べて、高度は低く平均最高標高は900~1,000m、それに起伏量も一段と少ないが、本図幅内においては大起伏山地として区分される部分の全てを含んでいる。河川の下刻作用は進んでいて、特に、鏡川中流域、勝賀瀬川・上入川の下流域など南下する横谷性部分での河川侵食に著しいものがある。ただし、中追から成山地域にかけての中起伏山地群は、陥没性の袋状山地でその周辺地域と形状を異にする。

I aとI bに区分されるのは、その間の地構性の低山盆地帯（上入川一池川構造線にそったいわゆる断層谷の一種）をもって境とし、吾北山地 I aの方がより地質構造上の支配がその山地形態を形成するのにより多く働いていて、東西方向の帯状分布がより明瞭である。

一方、吾川・土佐山山地 I bの南辺部は、穿入蛇行性の仁淀川本流のはげしい侵食によってその起伏量は一段と低いものとなっている。

1-2 北山山地 I c

高知平野の北部山地をさして一般に北山山地と呼ばれているが、それと同質同形態の山地の延長部分とみられるものに本図幅内の北山山地がある。標高 350~

400mの定高性をもった中・小起伏山地が東西方向に帯状分布している。これは吾川・土佐山山地の南縁部に前山的な縁辺山地として位置するものである。定高性は認められるが全体的には東高西低の傾向がうかがえる。上里、大奈路、綿山などに代表される緩傾斜地の分布は、正連寺高原（「高知」図幅内）とほぼ同様の成因をもつ地形とみなされる。即ち前輪廻性の準平原的遺物地域の傾向が強いと考えられる地形の一部である。

1-3 虚空蔵山・鷲尾山山地 I d

この山地は、その山麓を仏像構造線によって区切られた東西方向の脈状を呈する地壘性の山地である。土佐市の土土ノ森 467m 一帯の山地南側は急斜面をなし、北側は段階的に緩斜面化している。その地質構造は、東西に帯状にのびる秩父帯南帯の主として三壘系に属する虚空蔵山層群で構成されている。この地層は「須崎」「新田」図幅内の山地にも連なる基盤岩層であるため、地形的にも西南四国を横断する脈状形態を示す地壘山地である。一方、仁淀川以東の吉良ヶ峰 249m より鷲尾山（「高知」図幅内）にかけての脈状部分は、仏像構造線によってその北側を区切られた地域であり、仁淀川以西の断層運動による隆降方向が逆であるため、構造線をはさんで南北間で形態を異にしている。なおその基盤地質は、四万十帯の半山層である。

2. 丘陵・盆地

2-1 越知・佐川盆地 II a

越知・佐川盆地の形成は、地質的に複雑な地盤運動の結果の産物であるが、それを受けて地形的には、南四国中央低地の西端に位置し、北から越知・佐川・斗賀野の地域に区分される構造的な盆地である。これらは高知平野・伊野一日高低地と連なる地溝帯の西詰にあたる。

佐川盆地は、佐川地区と斗賀野地区に細分も可能であるが、本図幅内には佐川地区の北半分が含まれる。河川は柳瀬川を中心に現在は北上して越知盆地内で本流仁淀川に合流する逆川となっている。盆地底には、谷底平野としての堆積低地が広がり、小起伏の丘陵が発達している。しかし一方で河岸段丘の発達はよくない。

越知盆地は、仁淀川の河岸段丘を中心に広がる遊水地性の平坦地である。盆地

の西端は「上土居」図幅に含まれるが、地形的には佐川町黒岩地区も含めた東西に多少延びた広い範囲を越知盆地としてとらえることができる。東部は丘陵地を主とする多少起伏に富んだ地域であるが、柳瀬川下流域では柴尾付近を中心に仁淀川本流の氾濫原性低地として泥質物・砂などの堆積が多い。一方越知町越知を中心に女川など仁淀川の古い河原の一部が現在は河岸段丘として分布している。最近数千年間の仁淀川は、越知盆地内に今成河原を形成するなど砂礫の運搬・堆積を活発に行ってきた。

2-2 日高丘陵地IIb, 高知平野周辺丘陵地IIc, 高岡・弘岡丘陵地II d

南四国中央低地を高知平野から越知盆地にかけての丘陵地以南地域をもってその範囲とするなら、この地域の地形的特徴は、東西方向の地質構造に強く支配された地壘山地と地溝帯が数条並ぶ形状を示すことである。この地域は全体に起伏量が少ないため仁淀川以東のバーガ森145mから城山約100mにかけての大起伏丘陵地のように地壘性のものも含め全体に地質的成因を考察の柱とする必要のある地形を多く含んでいる。丘陵地には、前記の城山をはじめ南部の針巻地域などの基盤岩は風化しているが定高性の著しい大起伏丘陵地域と、旧仁淀川などの旧河道を基底とすると考えられる小起伏丘陵地域に区分される。特に下山・加茂・日下・波川・伊野・枝川と連続性に富んだ山麓丘陵は、古い断層線谷の残丘部分であるとみられる。高岡・弘岡丘陵地の小起伏部は、かつての海食台が残丘化した可能性が大きい形状を呈している。

3. 低地

3-1 日高低地IIIa・伊野低地IIIb

日高低地と伊野低地は、ほぼ東西方向に直線状にのびた地溝性の低地である。それは古い数条の東西方向の断層線に沿ってその弱体部が浸食され谷幅を広げたいわゆる断層線谷の一種である。その後沖積世になって凹部に泥質物や砂礫が堆積し今日に至っている地域である。特に、仁淀川本流は大量の砂礫をその河岸につきあげ自然堤防を築いたため、日下川、宇治川などの支流は本流への自然排水が十分に行なわれず泥質性の後背湿地を形成させ結果となっている。

3-2 高知平野IIIc

本図幅内における高知平野は、平野西端部にあたる朝倉地区が含まれるのみで

ある。それは池ノ内、針木と連なる地溝帯の一部でもあり、南下してきた鏡川が運搬してきた土砂をその溪口部に放出して扇状地を形成した地域でもある。鏡川は土砂放出後東流しているため地溝帯南辺にあたる水久保から鴨部にかけての神田川流域は、扇端部先の湧水帯とあいまって泥質物を中心とする後背湿地を形成している。

3—3 高岡・弘岡低地Ⅲd

この低地も東西方向に連なる地溝性の低地で、北および西側に丘陵地帯が分布するため、その開析された谷底平野が低地の一部を占める。仁淀川本流脇の後背湿地の形成は、前記日高低地Ⅲa、伊野低地Ⅲbの形成過程とほぼ同様であるが、特に高岡低地における川久保から中島（「須崎」図幅）にかけての仁淀川屈曲部に数条の古い自然堤防を残しており、その結果、波介川の排水不良をきたし、下流域に後背湿地を出現させている。

文 献

- 西 和彦（1974）：20万分の1高知県土地分類図地形分類及び同説明書，高知県
- 西 和彦（1979）：5万分の1「須崎」地形分類図及び同説明書，高知県
- 西 和彦（1980）：5万分の1「上土居」地形分類図及び同説明書，高知県

（高知市立高知商業高等学校 西 和彦）

II 表層地質図

概 論

本地域に分布する地層は、三波川帯、御荷鉾緑色岩類、秩父帯、四万十帯に区分される。

三波川帯は、本地域の北西部に分布し、泥質片岩および塩基性片岩よりなる。

御荷鉾緑色岩類は、玄武岩質の熔岩・ハイアロクラスタイトなどからなる。

秩父帯は、北帯・中帯・南帯に区分でき、北帯は、上八川層・白木谷層群からなり、中帯には、寺野変成岩類・三滝花こう岩類・横倉山層（シルル系）・伊野層・市ノ瀬層群・高岡層・川内ヶ谷層群・蔵法院層群・鳥ノ巣層群および白亜系が分布する。南帯は、三宝山層群よりなる。

四万十帯は、仏像構造線によって秩父帯と境され、本地域の南東部に分布し、白亜系の半山層からなる。

本地域の大部分を占める秩父帯について、以下やや詳しく述べる。

上八川層は、片理の発達した泥岩・砂泥互層中に、緑色岩類・チャートをはさむ。泥岩中には、砂岩・珪質頁岩・チャート・緑色岩のレンズやブロックを含み、混在岩状を呈する。白木谷層群は、同様に、混在岩状の泥岩や砂泥互層に、緑色岩類・石灰岩（主としてペルム紀）・チャート（ペルム～トリアス紀）・珪質頁岩・砂岩をはさむ。多くの場合、大きなチャートと石灰岩・緑色岩の下底は断層である。これら比帯の地層は、ジュラ紀のプレートの沈み込みにともなう付加体である。

中帯の地層は、複雑で、それらについて本文で箇々に説明を加えることは出来ないが、中帯全体が横ずれ構造帯をなしており、その中には異地性の岩石（たとえば、三滝火成岩類・寺野変成岩類・横倉山層）を含んでいる。

南帯の三宝山層群は、ジュラ紀後期の砂泥互層と三疊～ジュラ紀前期の石灰岩・チャートがくりかえすジュラ紀のプレートの沈み込みにともなう付加体である。

さらに本文中で、地質図中の時代区分について簡単な補足説明をしておきたい。近年、従来古生層といわれてきた地層の多くの部分（たとえば秩父帯）から、中生代を示すコノドントや放散虫が続々と発見されてきている。本地域でも、秩父帯の石灰岩は石炭紀から三疊紀、チャートや赤色頁岩も石炭紀からジュラ紀にわたるもの

があると予想される。これらは、ジュラ紀後半の砂泥互層や泥岩層と混在しておりその境界は多くの場合、断層あるいは泥岩層が未固結時に構造運動によって接触したと思われる。このような諸岩相の混合はプレートの沈み込みによって、海溝で起ったと考えられる(付加体の形成)。したがって、従来の地層累重の概念による中生層・古生層といった区分は、このような岩相地域にはあてはまらない。本地質図で、M~P(中~古生層)として示した部分は、以上のような意味づけをもっている。

各 論

1. 未固結堆積物

1-1(1) 砂・礫および泥(S)

河床堆積物で、主として砂・礫よりなり、一部に泥を挟む。

1-1(2) 砂・礫および泥(Sgm)

谷底平野・氾濫原性低地などに分布する沖積低地堆積物である。一般に仁淀川や鏡川などの本流並びにその支流にそって分布しており、砂礫を主とする。

1-1(3) 崖錐堆積物(g1)

主として、各地の山腹の急斜面に分布する角礫・砂・泥よりなる崖錐堆積物でその多くは地すべり防止区域に指定されている。

1-1(4) 砂・礫および泥(g2)

段丘堆積物であって、砂・礫および泥よりなり、仁淀川流域の越知周辺や鏡川流域の城山周辺には、河岸段丘堆積層が発達している。

本図幅の性格上、基盤岩類に重点をおいているので、崖錐堆積物や段丘堆積物の分布を故意に割愛したところも多い。従って、これらの第四系の分布や分類については、Iの地形分類図を参照されたい。

2. 固結堆積物

2-1(1) 砂岩泥質岩互層(sm)

中生界の川内ヶ谷層群・蔵法院層群・鳥ノ巣層群及び白垂系を構成する砂岩泥質岩互層で、泥質岩の卓越した部分も多い。貝化石などを産する。

2-1(2) 砂岩・砂岩泥質岩互層(ss)

秩父帯北帯では、珪質の塊状砂岩を主とする。三宝山帯では、厚い砂岩層と互層、四万十帯では、級化層理~塊状の厚い砂岩層と互層である。

2—(3) 泥質岩・混在岩層 (pm)

千枚岩質の泥質岩を主とし、砂岩ブロックやときに砂岩勝ち互層を含む部分を有す。またチャート・緑色岩・石灰岩などのブロックやレンズ・シート状岩体を含む混在岩層を呈する部分もある。

2—(4) 砂岩泥質岩互層・混在岩層 (alsm)

やや砂岩勝ちの互層、砂岩レンズやチャート・緑色岩のブロックやレンズを含む泥質混在岩など。

2—(5) チャート (ch)

層状の放散虫チャートを主とし、ペルム紀からジュラ紀のものを含む。

2—(6) 石灰岩・結晶質石灰岩 (ls)

ペルム紀～三畳紀の石灰岩。フズリナ化石を産する場合がある。

2—(7) 片岩状の泥岩・混在岩層 (伊野層) (spm)

伊野層の泥岩相で、強く片理の発達した部分と比較的弱い部分が混在する。

2—(8) 凝灰岩・凝灰質頁岩 (tf)

シルル系の緑灰色凝灰質岩で、時に砂泥互層をはさむ。

2—(9) 塩基性岩類 (B)

玄武岩の枕状熔岩・ハイアロクラスタイトを主とする。

2—(10) 御荷鉢緑色岩類 (M)

玄武岩の熔岩・火山角礫岩・ハイアロクラスタイトなどからなる。

2—(11) 泥質片岩 (ps)

本図幅の北西部に、塩基性片岩とともに小面積をしめて分布する。

一般に、泥質片岩には微褶曲が発達し剪断が著しい。また薄い砂質片岩と互層する部分も多い。

2—(12) 塩基性片岩 (bs)

塩基性片岩には、ラミナ構造が顕著なものやや塊状のものがあり、前者が卓越している。

2—(13) 寺野変成岩類・三滝花こう岩類 (AG)

シルル紀の角閃岩、花こう岩類などからなる。

2—(14) 石英斑岩 (qp)

上八川—池川構造線に沿った第三紀の貫入岩である。

2—(15) 蛇紋岩 (S)

剪断の著しいもので、秩父帯中帯に主として分布する。

文 献

甲藤次郎ほか 3 名 (1960・1961) : 20万分の 1 高知県地質鉱産図及び同説明書 高知県

甲藤次郎ほか 4 名 (1980) : 5 万分の 1 「上土居」表層地質図及び同説明書 高知県・愛媛県

甲藤次郎 (1982) : 佐川町地質図 (その 1・その 2) 及び同説明書 内外地図株式会社

(高知大学理学部 甲藤次郎)

(高知大学理学部 平 朝彦)

Ⅲ 土 壤 図

Ⅰ. 山地及び丘陵地の土壌

本図幅は、仁淀川の中・下流域に位置し、吾北山地の一部と、佐川及び高知周辺の丘陵地がみられる。吾北山地には、褐色森林土の分布が広くみられ、峯筋の緩傾斜地や、棚状地形の緩傾斜地には黒ボク土壌の分布がみられ、土壌の生産力は高く、木材生産には適した地区が多い。佐川及び高知周辺の丘陵地には、赤・黄色系褐色森林土や、暗赤色土壌の分布が多く、土壌の生産力はやや低く、特に、赤・黄色系褐色森林土の地区では、崩壊の危険が高い地区が多いので、林地の保全には、注意が必要である。

Ⅰ-Ⅰ 黒ボク土壌

大黒山統

高位部にある峯筋及び棚状地形などで、幅広い緩傾斜の部分にみられる土壌である。弱いA₀層の発達が見られるが、F層が主体となる部分が多い。A層の発達は良好であるが、構造の発達は悪く、団粒状～粒状構造のみられるのは、薄いA₁層のみで、A₂層及びB層はともに、構造の発達は極めて劣っている。凸地形部の相対的な傾斜地以外では、ヒノキの造林にはやや過湿の条件となり、スギにあっては、直径成長は良好であるが、樹高成長はやや劣る傾向がみられる。分布は、緩傾斜地形の部分であり、造林その他の各種作業には好適の条件である。

Ⅰ-Ⅱ 乾性褐色森林土壌

津ノ山Ⅰ統

急傾斜の峯筋部に分布のみられる土壌である。この土壌の分布は鋭尖の峯筋部に特徴的にみられ、その分布幅は狭小であり、更に、傾斜の緩急に対応して断続的である。A₀層の発達がみられるが、一般的にはF層の発達が多く、H層の発達は弱いか、又は、F—H層の形でみられることが多い。一般的にはA層のみられる地区が多く、生産性は比較的良好な地区が多い。

Ⅰ-Ⅲ 褐色森林土壌

津ノ山Ⅱ統

峯筋部に多くの分布がみられる土壌である。発達の弱いA₀層がみられ、薄いF

層のみられる地区が多いが、民有林地では破損された地区が多い。A層の発達是比较的良好であるが、土壤層の堆積はやや堅い。生産性は良好であり、ヒノキの造林には好適の土壤である。峯筋部の分布が主体であり、土壤層の堆積が不安定で、表土の移動がみられ易いので、注意が必要である。

津ノ山3統

一般的には、山腹斜面の分布が多くみられる土壤である。A₀層の成達はほとんどみられず、A層の成達は良好であり、土壤層の堆積も軟らかく、生産性は良好である。相対的な緩傾斜の地区でみられる土壤には、A層の色調およびB層との対比等の性質が極めて黒ボク土に類似する土壤がみられ、透水性の劣る性質が認められる。一般的には、スギの造林に好適の土壤であるが、ヒノキの造林にはやや過湿の条件を持つ地区が多くなるので、注意が必要である。

1-4 湿性褐色森林土壤

津ノ山4統

相対的に緩傾斜の谷筋から、山腹斜面下部にかけて分布のみられる土壤で、北・東斜面での分布が多い。一般的には、弱いA₀層の成達がみられることが多いが、A層の成達は極めて良好であり、土壤層の堆積も軟らかく、崩積土、崩積土が多く、生産性は極めて良好であり、スギの造林には好適の土壤である。B層は、水分の影響を受けて灰色味を帯びるようになり、ヒノキの造林にはやや過湿の条件となるので、注意が必要である。

三原4統

川岸部の緩傾斜地にみられる運積土壤であり、未熟土の性質が強く残されている。A層の成達は、堆積時代の新旧により差がみられ、B層の成達は極めて劣っており不明瞭で、砂土・砂礫土の性質が強くみられる。A層の色調は湿性の傾向をみせており、生産性は良好で、スギの造林には極めて好適の条件を持っているが、ヒノキの造林には、明らかに過湿である。

1-5 乾性褐色森林土壤（黄褐色）

中筋3統

丘陵地及び低山地の峯筋で、相対的な緩傾斜地に分布のみられる土壤である。A₀層の成達はみられるが、破損された部分が多い。黄褐色系の性質が強くみられる

土壤であるが、部分的には、赤褐系の性質も残されており、さらに、褐色森林土の色調の部分も混在している。この3者の出現と地形との関連は、概略次のとおりである。(1) 赤褐系、峰筋中央部で緩傾斜の部分に狭小な分布がみられる。

(2) 黄褐系、峰筋で傾斜がやや急な部分及び峰筋の中央部から斜面を下った部分に分布がみられる。(3) 褐色森林土、傾斜の急な部分および斜面の下部に分布がみられる。この土壤の地区では、一般的に土壤層は深いが、堆積は堅密な地区が多い。A層の発達はやや弱い、ほとんどの地区でみられ、生産性は概して良好である。

1-6 褐色森林土壤 (黄褐系)

中筋4統

丘陵地及び低山地で、相対的な緩傾斜地の山腹斜面及び谷筋部に分布の見られる土壤である。弱いA₀層の発達がみられるが、破損された地区が多い。黄褐系の性質がみられる地区が多いが、褐色森林土の色調の部分と混在している。黄褐系の性質の地区は、相対的な緩傾斜地にみられ、山腹斜面の上・中部の分布が多い。褐色森林土の地区は、やや傾斜の急な部分および山腹斜面下部や谷筋の分布が多い。ヒノキの造林には適しており、成長も良好である。

1-7 乾性褐色森林土壤 (赤褐系)

筆山統

赤色風化の影響が残された土壤で、地表には薄いA₀層の発達はみられるが、破損された地区が多い。一般にA層は色が淡く、層厚も薄く、B層およびC層の色調は、赤味が強く、土壤層の堆積は堅密である。土壤の生産力は低いが、分布は丘陵地形等の緩傾斜地に限られているので、耕耘・施肥による土地利用には、適している。

1-8 暗赤色土壤

井桑統

この土壤は、蛇紋岩を母材として発達したもので、赤色土壤よりも明度・彩度ともに低く、暗赤色の色調を呈する土壤である。土壤の性質には、母材の影響が強く認められ、弱酸性ないし塩基性の反応を呈するが、塩基の主成分はマグネシウムで、特有の性質をもっている。この土壤の土性は、一般に塩質が強く、土壤

層の堆積は緻密で構造の発達が悪く、生産性は劣っている。

吉良ヶ峰統

この土壤は、石灰岩を母材として発達したもので、赤色土壤よりも明度・彩度ともに低く、暗赤色の色調を呈する土壤である。土壤の性質には、母材の影響が強く認められ、弱酸性ないし塩基性の反応を呈するが、塩基の主成分はカルシウムで、特有の性質をもっている。この土壤の土性は、一般に植質がやや強く、土壤層の堆積は緻密で、構造の発達は劣っており、生産性は、概して低い。

2. 台地および低地の土壤

本図幅は中山間地域（鏡村、吾北村と土佐山村、越知町の一部）と平坦地域（高知市、春野町、土佐市、佐川町の一部と日高村）を包含し、水田とともに畑地も多い。

水田の主体は沖積土壤でその大部分が灰色低地土（乾田）である。一部グライ土壤（湿田）が分布するが嵩上げによる乾田化がかなり進んでいる。越知町には下層に黒ボク層の埋没した乾田がある。

また高知市と春野町の一部には県下で数少ない土壤である黒泥土が分布している。畑地はほとんどが有効土層1 m以上の褐色森林土で、一部（仁淀川沿い）に水積砂地の畑地があり、越知町に多い。

土壤類型数は水田20、畑地3である。

2-1 砂丘未熟土壤

内灘統（十市浜統）

海岸沿いの砂堆上の微高地に分布する海成堆積の粗粒質畑地土壤である。表層における腐植の集積は少なく、土層の分化はきわめて弱い。下層土の土色は一般に彩度の低い黄褐色ないし灰褐色の場合が多い。地下水位は低く、排水は良好ないし過剰で断面の少なくとも1 m以内に斑紋・結核などの沈積物は認められない。また礫層もない。有機物、塩基の補給と灌水施設の整備を要する。

2-2 細粒褐色森林土壤

岳辺田統（栗の木Ⅰ統、徳王寺Ⅰ統）

表層に腐植層はなく、下層土の土色は黄褐色で有効土層は深く、1 m以内に礫層はない。土性は細粒質で堆積様式は崩積、母材は非固結堆積岩である。過湿、

過干に注意を要する場合がある。

2-3 礫質褐色森林土壌

岩屋統（栗の木2統，徳王寺2統）

30～60cmに礫層があるので，有効土層は比較的浅い。表層腐植層はなく，下層土の土性は細粒質で非固結堆積岩を母材とする崩積土壌である。有機物および塩基の補給を要する。

2-4 黄色土壌

蓼沼統

表層腐植層はなく，下層土が黄色～黄褐色で鉄の斑紋をもつ細粒質の水田土壌である。下層土が粘り割には透水性がよい。母材は非固結堆積岩で堆積様式は崩積である。山腹の棚田として存在する。有機物および珪酸塩の補給を要する。

北多久統

蓼沼統との違いは，下層土にマンガンの結核があることだけで，透水性はよい。山腹傾斜面の棚田である。有機物および珪酸塩の補給を要する。

新野統

山腹傾斜面の棚田で，表層腐植層はなく，下層土の土色は蓼沼統と同じである。マンガン結核を含み，土性は粘質で水持はよい。有機物および珪酸塩の補給を要する。

2-5 細粒褐色低地土壌

常万統

非固結堆積岩由来の水積土壌で下層土は黄褐色を呈し粘り，水持ち普通の乾田で有機物，珪酸塩の補給を要す。

2-6 細粒灰色低地土壌

四倉統

表層腐植層はなく，下層土が灰色で鉄の斑紋をもつ細粒質の水田土壌である。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で，河川沿いの沖積地に分布する。有機物および珪酸塩の補給を要する。

佐賀統

下層にマンガンの結核をもつ以外は，四倉統と同じである。沖積地に分布し，

有機物および珪酸塩の補給を要する。

鴨島統

四倉統と違うのは、下層土の土性がやや粗粒質であることだけである。沖積地に分布し、有機物および珪酸塩の補給を要する。

宝田統

下層のマンガン結核の存在のみが鴨島統と異なる。分布は沖積地で、有機物および珪酸塩の補給を要する。

2—7 中粗粒灰色低地土壌

加茂統

下層土が灰色、壤質の水積土壌で斑紋にとみ、構造はない。水持ちやや不良の場合があり、有機物および珪酸塩の補給を要す。

清武統

表層腐植層はなく、下層土が灰色で鉄の斑紋とマンガン結核をもつ中粒質の水田土壌である。1 m以内に砂礫層はない。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、河川沿いの沖積地に分布する。有機物および珪酸塩の施用を要する。

豊中統

清武統の断面と異なるのは、下層土が粗粒質で、マンガン結核がないことである。沖積地に分布し、有機物および珪酸塩の補給を要する。

久世田統

表層腐植層はなく、下層土が灰色で細粒質の水田土壌であって、30～60cmに礫層がある。鉄の斑紋があり、水持ちはやや過良である。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、昔の河川敷に堆積したものである。有機物および珪酸塩の補給を要する。

追子野木統

久世田統の断面との差は、下層土の土性が中粗粒質という点である。漏水田が多く、珪酸塩の効果がとくに高い場合が多い。有機物の補給を要する。

国領統

この土壌統の特徴は、0～30cmから礫層が現われることであって、昔の河川敷あどに分布する典型的な浅耕漏水田である。珪酸塩の効果がとくに高いので、有

機物とともに補給する。

2—8 灰色低地土・下層黒ボク

野市統

表層土は鈹質土壤が主体であるが、下層に腐植質火山灰層をもち、土性は微粒、細粒質で粘く、30～60cmから礫層が出現する。腐植質火山灰層以外は非固結堆積岩を母材とする水積土壤である。有機物、珪酸塩の補給を要す。

2—9 細粒グライ土壤

富曾亀統

細粒強グライ土の水田土壤である。表層腐植層はなく、下層土の土色は青灰色で土性は微粒質で粘い。1 m以内に礫層はなく、鉄の斑紋は30cm以下にはない。グライ層は作土または作土直下から出現し、30cm以内に地下水の現われる強湿田である。非固結堆積岩を母材とする水積土壤で、排水対策を要する。

田川統

地下水位が60cmの強湿田である。表層直下からグライ層が現われるが、下層に脈状斑がある。土色は青灰色、土性は強粘質で透水性はごく悪く、灌水管理に注意を要する。

西山統

表層腐植層はなく、下層土の土色は青灰色で土性は細粒質である。1 m以内に砂礫層はなく、鉄の斑紋が30cm以内に現われることがある。グライ層が作土または作土直下から出現し、地下水が30cm以内に現われる強湿田である。非固結堆積岩を母材とする低地の水積土壤で、排水対策を要する。

保倉統

表層土の土色は灰色、下層土の土色は青灰色で土性は微粒質で粘い。グライ層は30～60cmから現われ、その上には鉄の斑紋がある。地下水位は70～90cmである。1 m以内に礫層の現われることのない半湿田土壤である。非固結堆積岩を母材とする水積土壤で強グライ土壤に接して分布する。排水対策を要する。

2—10 黒泥土壤

井川統

下層に黒泥が集積した湿田で、表層直下からグライ層である。土色は黒みがか

った灰色であり，土性は粘質で透水性はごく悪い。排水対策を要す。

(高知県林業試験場 入交幸三)

(高知県農林技術研究所 久保田増栄)

IV 傾斜及び標高区分図

傾斜区分は、2万5千分の1地形図を作業基図とし、これを機械縮図したものである。したがって5万分の1地形図のコンター密度とは必ずしも一致しないが、それよりも詳細である。

傾斜区分図は、土地開発の応用的意義が高いので出来るだけ实际的に細分化し、傾斜量の変化する境界を直径2mm(100m)の範囲まで追跡してある。しかし最小単位地形の全面が全く同一傾斜面で表現できるというのは、低地か台地、または未開析準平原面ぐらいに限られている。例えば尾根の幅員が100mのリミット以下であるような丘陵地などは、その丘頂面を見渡すレベルの勾配は直接記載されず、もっと細かい開析谷両側の斜面勾配が平均化されることになるので、かなり大きい現実の傾斜量となっている。

本図幅における40°以上の急傾斜地は、鏡川、勝賀瀬川、上八川川などが北部山地より横谷状に南下するその谷壁を中心に主として河川の下刻作用による侵食性の急斜面である。山地部分で最も広い面積を占めるのは、30°~40°傾斜地域であり、丘陵部分では、20°~30°傾斜地域である。緩傾斜地は、山地部分では北山山地の山頂部から山腹にかけて前輪廻性の準平原遺物の一部とみられる面が残存し、特に行川一帯に著しい分布をみる。またその延長部ともみられる中追・成山地域にみられる緩傾斜面は、吾川・土佐山山地の中にあつては袋状地域にあたり、地質構造との関係もあいまって特異な緩斜面分布地域であるといえる。一方、丘陵地域の緩斜面分布は一般的であるが、全体に南向き丘陵よりも北向き丘陵の方がより長い丘頂面をもって分布している傾向がみられる。特に大内、池ノ内、朝倉にかけての地溝帯に分布する丘陵地は、その傾向がよく現われている。

(高知市立高知商業高等学校 西 和彦)

V 水系・谷密度図

水系図は、河幅 1.5m 以上の河川の平面形現状を空中写真によって判読して、これを基図に転記し現地調査の結果に基いて整理し、2万5千分の1地形図を用いて補正して作成したものである。水系図では低地の主要水路及び山地・丘陵地・台地の開析谷を平面の形態で表示してある。

谷密度図は、水系図を基礎として土地の開析状態を数量的に表現するように地形図を縦横40等分し、その方眼区画の辺縁を切る谷の数の和を求め、その20等分区画すなわち前述の方眼区画の4区画の和で示したものである。

本図幅における水系は、大別して鏡川水系と仁淀川水系に区分される。仁淀川水系は、南下する勝賀瀬川、上八川川を、北流する柳瀬川、東流する日下川などを合流する。仁淀川本流は、先行谷性の穿入蛇行河川であるが、旧河道は日高低地、伊野、池ノ内、朝倉方面にかけて流路をとった経過もあり、大きな侵食跡を各所に残している。縦谷性のものとしては上八川川及びその支流の東西方向流路部分をはじめ日下川、宇治川、波介川など地溝帯にそった断層線谷性のものが主である。一方横谷性のものは、鏡川、勝賀瀬川、上八川川などが小さく穿入蛇行し峡谷状に侵食しながら流下する部分にその代表的な形態をみることができる。

特異な河川としては、佐川盆地を北上する柳瀬川が盆地内の河床勾配は緩く、厚い沖積堆積物の上を流下する逆川として分布する。一方仁淀川の支流である日下川、宇治川、波介川などは、本流の形成した大規模な自然堤防にその排水口をふさがれているため、流域の割合に比べて広大な低湿地をその中流域にまで広げている排水不良河川となっている。

谷密度は図幅中央部の中追付近を中心に北東から南西方向にかけて最も密度の高い地域が広がっている。それは未開析の谷壁斜面も含めて集中豪雨性の降水に対し不安定な地形を残存させている地域であるといえる。

(高知市立高知商業高等学校 西 和彦)

VI 土地利用現況図

1. 林 地

本地域は、県のほぼ中央部に位置し、仁淀川をはさみ、比較的緩傾斜の山地で形成されている。

この地域に含まれる11市町村の森林率は、ほぼ70%と、県平均の82%をかなり下回っている。また、国有林はなく、全て民有林であり、小規模・分散的な所有が多い。

林地の利用現況は次のとおりである。

- (1) 人口林率は高くなく、仁淀川南岸の里山地帯ではヒノキが主体であり、中央部以北の山村地域についてはスギが主体である。
- (2) 天然針葉樹林は、アカマツ林がほとんどであるが、純林は少なく、天然の広葉樹と混交林になっている。
- (3) 天然広葉樹林は、大部分がシイ・カシの常緑林であるが、ナラ・シテなどの落葉林も混在している。
- (4) 竹林は里山を中心に点在しているが、自家用に利用されている程度である。

2. 農 地

水田は中生水稻の栽培が多く、一部でハウス園芸（土佐市、春野町のキュウリ、スイカ、日高村のトマトなど）が行なわれている。

日高村は東西にのびる地溝帯様の地形のため冠水常襲地帯でかつ湿田が多かったが、最近導水トンネルが完成し、山土による嵩上げ工事によって湿田が乾田化（沖名地区）して畑作の拡大が期待されている。

畑地はショウガ（伊野町）、コンニャクイモ（吾北村）、ミョウガ（鏡村）が県下の主産地である。

樹園地は南部では温州ミカン、北部では八朔、栗、梅、茶が栽培され、日高村霧山では昭和47年に10数haの大規模茶樹園を造成し、製茶工場も設けて良質の茶の生産に成功している。

（高知県農林技術研究所 久保田増栄）

1983年3月 印刷発行

土地分類基本調査

伊 野

編集発行 高知県企画部企画調整課
高知市丸ノ内1丁目2番20号

印刷 内外地図株式会社
東京都千代田区神田小川町3-22